

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (1) 広報・啓発の充実

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一歩) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

1	事業名	男女共同参画推進のための講座等の開催	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市民の男女共同参画に関する理解を深め、男女共同参画の推進を図る。		男女共同参画に関する講座や講演会等を年1回程度開催する。		
事業の実施内容				
・オンライン講座 11/5「アニメの主人公たちは何と闘っているのか?～アニメの世界からジェンダーを考えてみよう～」(参加人数:24人) アニメを題材に、身近に分かりやすく「男女共同参画」への理解を深めるための講座を実施した。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 参加率		【成果指標】 満足度		
【目標】 80% 【実績】 69%		【目標】 80% 【実績】 89%		
【達成度】 4(概ね達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
募集人数35人、参加者24人(女19人、男5人)内WEB参加22人		アンケートの満足・ほぼ満足の合計 「黎明期から遡って、ヒーローの系譜とジェンダーの切り口が大変興味深かった。先生の知識も豊富で論旨に非常に納得感があった」などの感想があり、ジェンダー問題の理解促進を図ることができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
若年層の参加を狙い、アニメーションを題材としたオンライン講座とし、近隣高校・大学への告知も行ったが、10～20代の受講者は1名のみだった。		若年層からの関心を高めるため、講師の選定、SNSやネットを活用した告知、来所した学生へのチラシの配付など、アプローチ方法を再検討する。		
2	事業名	男女共同参画情報誌の発行	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市民に、男女共同参画に関する情報をわかりやすく発信することで、意識啓発、理解促進を図る。		年2回定期的に男女共同参画情報誌を発行する。毎回テーマを定めた特集を掲載する。		
事業の実施内容				
情報誌「みてみてほっと越谷」を発行・配布。 第53号(7/1発行)『生涯現役社会』の実現に向けて～シニアパワーが地域を活性化する～では地域と繋がる取り組みについて紹介。第54号(2/1発行)『脱オトコ』らしい＆『オンナ』ならではの職業 性別にとらわれない仕事選びを考える』では、女性救命士、男性保育士に仕事についてインタビュー記事を掲載。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 発行部数		【成果指標】		
【目標】 26,000部 【実績】 26,000部		【目標】 — 【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
第53号・第54号:各部13,000部		市の施設など配布、自治会の回覧、ホームページ掲載により、多くに市民の意識啓発、理解促進に図ることが出来た。特に第54号ではテーマに合わせた施設(学校・消防関係)に配布部数を増やす取組みを実施、より多くの市民に届けることが出来た。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
年2回発行。各号とも作成におけるテーマ検討等、確認作業を行い、発行に至っている。				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし。		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (1) 広報・啓発の充実

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一歩) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

3	事業名	男女共同参画情報を選択・判断する力を育成する事業の実施	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
インターネット、スマートフォンなど多様化するメディアから発信されるジェンダー(社会的・文化的に作られた性差)に関する情報をうのみにせず、主体的に読み解き、活用する能力を高める。		メディアから発信される情報を選び取る力、見極める力を養うための講座の開催やパネル展示等を行う。		
事業の実施内容				
・10/8「身近な広告にひそむメッセージを読み取ろう ～あなたの価値観、刷り込まれてない?～」(参加人数:25人) 炎上したCMの実例などから、情報の取捨選択方法や、自分の中にあるアンコンシャス・バイアスについて知るための講座を実施した。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 実施事業数		【成果指標】		
【目標】 1回 【実績】 1回		【目標】 — 【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
募集人数20人、参加者25人(女15人、男10人)内アーカイブ視聴6人		身近にあるジェンダー問題をCM実例等を使って可視化することで、分かりやすく男女共同参画の課題を知ってもらうことができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし。		引き続き、適切に事業を実施する。		

4	事業名	男女共同参画推進のためのパネル展示等の実施	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市民の男女共同参画に関する理解を広め、男女共同参画の推進を図る。		国の男女共同参画週間等に合わせて、パネル展示等を行う。		
事業の実施内容				
①4/4～4/18「ジェンダーギャップ指数2022」②6/23～6/29「第22回七夕フェスタ」 ③6/18～7/2「インティマシー・コーディネーター 西山ももこ」④10/3～12/22「あなたとわたしが経験した『ずるい言葉』」 ⑤11/24～12/1「知っていますか?パープルリボンキャンペーン」⑥12/6～12/9「パープルリボンタペストリー」 ⑦1/24～1/30「災害と男女共同参画パネル、」「わたしの」防災対策パネル」⑧3/6～3/12「ジェンダーギャップ指数2023」				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 実施事業数		【成果指標】		
【目標】 7回 【実績】 8回		【目標】 — 【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
講座と連動した参加型パネル「あなたとわたしが経験した『ずるい言葉』」作成。188件の参加があった。		貸出パネルだけでなく、3つのパネルを作成し最新の情報を市民に広めることが出来た。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし。		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (1) 広報・啓発の充実

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一步) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

5	事業名	男女共同参画推進のための出前講座等の実施	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的			手段	
市民の男女共同参画に関する理解を広め、男女共同参画の推進を図る。			地区センター等において、男女共同参画に関する講座、パネル展示等を実施する。	
事業の実施内容				
①「ままマルシェえほん(大型)読み聞かせ」4/25【1回目】(参加者:5人) 7/21【2回目】(参加者:14人) 9/15【3回目】(参加者:9人)、②12/5児童館ヒマワリ「ミルキーママスクール『ジブンらしさ』をうばわない子育て」(参加者:26人)③12/9児童館コスモス「パパの育児『こんなはずじゃなかった』」(参加者:14人)④1/27大袋地区センター・公民館「防災講座～地域防災力を高めるために～」(参加者:56人)				
活動実績			取り組みの成果	
【活動指標】 実施事業数			【成果指標】	
【目標】 6回 【実績】 6回			【目標】 — 【実績】 —	
【達成度】 5(十分に達成できた)			【達成度】 5(十分に達成できた)	
参加者129人(①33人②26人③14人④56人)			積極的に出向いて講座を行うことで、多くの人に気づきや学びの機会を提供し、市民の理解を深めることが出来た。	
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)			地区センターや児童館、地域の活動団体の事業に出向き、男女共同参画の啓発を行うことができた。	
<前年度評価> A				
認識した課題			課題解決に向けた対応	
特になし。			引き続き、適切に事業を実施する。	

6	事業名	男女共同参画推進週間における事業の実施	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的			手段	
市の男女共同参画推進週間に合わせて、市民団体と協働で男女共同参画の推進を図る。			男女共同参画支援センターの周年事業(七夕フェスタ)を、登録団体その他の市民団体と協働で実施する。	
事業の実施内容				
・6/20～7/2「第22回七夕フェスタ」開催 ・6/24「オープニングセレモニー」(参加人数:625人) ・6/20～7/2「登録団体による企画展示」・6/25～7/2「登録団体による企画講座」(参加人数:362人) ・7/1夕焼けコンサート(参加人数:90人)				
活動実績			取り組みの成果	
【活動指標】 参加団体数(延べ)			【成果指標】	
【目標】 125団体 【実績】 170団体			【目標】 — 【実績】 —	
【達成度】 5(十分に達成できた)			【達成度】 5(十分に達成できた)	
七夕フェスタ:第1回実行委員会36団体、第2回実行委員会29団体、第3回実行委員会35団体、企画講座16団体、企画展示25団体、交流会22団体			登録団体が主体となり男女共同参画に関するパネルを展示したり講座を実施することで男女共同参画の推進を図ることができた。	
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)			実行委員会方式で、全登録団体が事業運営に携わることにより、登録団体の「ほっと越谷」の実施事業に対する理解が深まった。実行委員会会議や交流会を通じて、準備・運営することで、協働による連帯感を高めることができた。	
<前年度評価> A				
認識した課題			課題解決に向けた対応	
特になし。			引き続き、適切に事業を実施する。	

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (1) 広報・啓発の充実

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一步) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

7	事業名	市民との協働による事業の実施	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市民との協働による事業を企画実施することにより、男女共同参画に関する理解を深める。		公募した市民で構成する企画委員等との協働により、事業を実施する。		
事業の実施内容				
公募による市民企画委員との協働で計6回企画委員会議を行い「ほっと越谷」TikTokアカウントの動画の企画・制作を計8本実施した。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 実施事業数		【成果指標】		
【目標】 2回 【実績】 8回		【目標】 — 【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
企画・制作動画8本 6フォロワー22いいね 総再生数4503回 @hot_koshigaya		企画委員が企画打ち合わせから振り返りまで計6回の委員会を実施。「ほっと越谷」の所蔵本を読むことや、講座に参加することで、企画委員自身が男女共同参画への理解を深めさらに、TikTokで発信することにより、施設の周知へとつながった。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
企画委員全員が女性であったため、男性が興味を持ってくれる募集の仕方を検討していく必要がある。		男性の中でもターゲットを絞り(学生なのか、社会人なのか、参加しやすい年代はどこなのか等)募集を行う。		
8	事業名	支援センター登録団体等との協働による事業の実施	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市民との協働による男女共同参画の推進を図る。		男女共同参画支援センターの登録団体および他の市民団体との協働により、男女共同参画に関する講座の企画、運営を行う。		
事業の実施内容				
公募により越谷市内で活動している団体と協働して事業を実施した。 ・10/21「地域で見守る私たちのこども支援」(参加者:37人) ・10/29、11/12「現役パパの間く育休・育児・仲間」(参加者:20人) ・11/9「どう防ぐ?障がい者の性被害」(参加者:43人)				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 協働で開催する講座数		【成果指標】 満足度		
【目標】 4回 【実績】 4回		【目標】 80% 【実績】 97%		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
書類選考、プレゼンテーションにより3団体、4講座決定。		アンケートの満足・ほぼ満足の合計 満足度だけではなく受講をきっかけに活動に参加した事例があった。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (1) 広報・啓発の充実

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一步) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

9	事業名	男女共同参画に関する図書の貸出し	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市民の男女共同参画に関する理解を深め、男女共同参画の推進を図る。		男女共同参画に関する図書の貸出しを実施する。		
事業の実施内容				
2023年度購入本103冊 ブックフェア「家族を勝利に導くカギはパパがにぎっている!」「ひとりで抱えない育児と介護 ~明日もしも親が倒れたら?~」「あなたの価値観は“刷り込まれて”いませんか?」「政治」を身近に感じてみませんか?」「いろいろな課題を見つけるために、まわりを見渡してみよう~「男女共同参画」って意外と身近!~」「知り考え動く 多様な性と生」開催				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 利用者数(延べ) 【目標】 510人 【実績】 326人 【達成度】 3(達成まで今一步)		【成果指標】 【目標】 — 【実績】 — 【達成度】 4(概ね達成できた)		
・利用者326人(女245人、男79人、その他2人) ・貸出冊数466冊		本を新たに103冊を購入し、内容の分かりやすい本や漫画など子ども向けの蔵書を強化し、若い世代に手にとってもらえるよう図った。		
事業の評価				
C(より積極的な取り組みが必要) <前年度評価> B		コロナ禍に実施していた施設の利用時間制限を撤廃し席を増やしたところ、来館者の層が変化した。多くが学生となったため、例年通りの取り組みでは紙の本を手にとって貰えなかった。		
認識した課題		課題解決に向けた対応		
新しい来館者に図書貸出しを行っていることを周知し、学生にも紙の本を手にとってもらうための工夫が必要である。		手軽に手に取れるよう本を目立たせる配置にする、ブックフェア開催を増やす、ポップを作成するなどして図書に目を留めてもらう取り組みを積極的に行う。		

10	事業名	ジェンダーの視点を踏まえた刊行物等作成のための啓発	所管課所	人権・男女共同参画推進課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市の各課所に、性別による固定的イメージが含まれる刊行物等を作成することがないよう意識啓発を図る。		ジェンダーの視点を踏まえた刊行物等作成のガイドラインを作成するとともに、ガイドラインに沿って刊行物等が作成されているかを定期的に確認し、各課所に通知する。		
事業の実施内容				
リーフレットやチラシ、広報こしがや等、市が発行した刊行物を毎月5種類チェックし、チェック項目に該当する刊行物があった場合は、担当課所に今後の配慮をお願いしている。また、チェック結果を3カ月に1回掲示板で報告することで、全庁的に作成時の注意喚起を図った。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 チェックした刊行物等の数 【目標】 60種類 【実績】 60種類 【達成度】 5(十分に達成できた)		【成果指標】 【目標】 — 【実績】 — 【達成度】 4(概ね達成できた)		
毎月5種類×12カ月		リーフレットやチラシの作成の際に、いくつかの課からアドバイスを求められるなど、ジェンダーの視点を踏まえた刊行物作成に対する意識が高めることができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる) <前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (1) 広報・啓発の充実

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一步) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

11	事業名	市民への男女共同参画苦情処理委員の周知	所管課所	人権・男女共同参画推進課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
男女共同参画の推進に関する市の施策や、男女共同参画の推進を妨げる事案に対して、市民が必要なときにいつでも苦情の申し出ができるように、苦情処理委員の周知を図る。		広報紙やホームページに男女共同参画苦情処理委員の情報を掲載するほか、随時チラシ等を用いて苦情処理委員の周知を行う。		
事業の実施内容				
年間を通じてPRリーフレットを市の施設に設置するほか、ホームページでも制度を紹介している。また、ほっと越谷の情報誌「みてみてほっと越谷」に制度を紹介する記事を掲載するほか、二十歳のつどいの参加者に制度を紹介するチラシを配付した。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 広報紙やホームページ等でPRする回数		【成果指標】		
【目標】 3回 【実績】 3回		【目標】 — 【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 4(概ね達成できた)		
①越谷市ホームページ②「みてみてほっと越谷」54号(2月)③二十歳のつどい参加者にチラシを配付(3,100部)		さまざまな媒体や機会を利用し、男女共同参画苦情処理制度について広く周知を図ることができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
令和5年度の苦情の申し出はなかったが、男女共同参画を妨げる事案は未だ存在しているため、今後も積極的に制度の周知を図っていく必要がある。		今後も積極的に周知を行う。		

12	事業名	職員に対する男女共同参画の啓発	所管課所	人事課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
男女がともに能力を発揮できる職場環境を形成するため、男女共同参画に関する研修を実施することにより市職員の理解を深め、意識啓発を図る。		男女共同参画に関する研修を実施する。		
事業の実施内容				
新採用職員及び監督職員(主幹級)を対象に、男女共同参画に関する研修を実施した。 (新採用職員研修は4/4~4/6で実施、監督職員(主幹級)研修は10/11、10/20に実施)				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 男女共同参画に関する研修の受講者数		【成果指標】 理解度		
【目標】 — 【実績】 153人		【目標】 100% 【実績】 86%		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 4(概ね達成できた)		
①新採用職員研修(4/1付採用):男性52人、女性73人 ②監督職員(主幹級)研修:男性16人、女性12人		人権・男女共同参画推進課職員を講師に「男女共同参画の意義や取り巻く環境」について講義を実施。研修後の受講者アンケートでは、「理解できた」、「概ね理解できた」や「今後の業務の参考になる」といった回答が多数を占めた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし。		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (2) 性の多様性に関する理解の促進と支援

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一步) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

13	事業名	性の多様性の理解促進に関する講座の開催	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市民に、性の多様性の理解を促すとともに、互いに尊重し合う意識の啓発を図る。		性的少数者への理解を深める講座を開催する。		
事業の実施内容				
多様な性についての情報を提供し、性の多様性の理解を促すとともに、性的少数者に対する理解と支援や多様性を認め合える社会の重要性を伝える講座を実施した。 ・12/9「性の多様性について考えよう～上映会&ミニトーク～」上映作品「であること」				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 参加率		【成果指標】 理解度		
【目標】 80% 【実績】 100%		【目標】 80% 【実績】 100%		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
募集30人、参加者30人(女24人、男6人)		アンケートの理解できた・ほぼ理解できたの合計 「ドキュメンタリー映画で見たえがあった」「性の多様性について考えさせられる内容だった」などの感想があり、性の多様性への理解促進に繋げることができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)		性の多様性や認め合える社会の重要性についての学びや考える場を提供し、性的少数者に対する正しい認識を市民の方に深めていただくことができた。		
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし。		引き続き、適切に事業を実施する。		

14	事業名	性的少数者への理解促進のための職員研修の実施	所管課所	人権・男女共同参画推進課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市職員が性的少数者への正しい理解と認識を深め、窓口等において、配慮した対応ができるよう、意識啓発を図る。		性的少数者への理解を深める研修を実施する。		
事業の実施内容				
性的少数者を講師に招き、管理職向けの内容で、性的少数者への理解促進のための研修を実施した。 講師:レインボーさいたまの会				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 受講者数		【成果指標】 理解度		
【目標】 45人 【実績】 32人		【目標】 100% 【実績】 90%		
【達成度】 4(概ね達成できた)		【達成度】 4(概ね達成できた)		
一般職員を対象とし目標設定したが、今年度からは管理職35人を対象として行ったため、達成度は「4」とした。		研修後の受講者アンケートでは、「自分も当事者であるとわかった」「当事者の困難さについて、表層的にしか理解していなかったことを深く感じた」「性や恋のみの話ではなく、生活、命、人権に関わる問題であると気付いた」等の回答があった。		
事業の評価				
B(概ね順調に取り組んでいる)		性的少数者や認め合える社会の重要性についての学びや考える場を提供し、性的少数者に対する正しい認識を市民の方に深めていただくことができた。		
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (2) 性の多様性に関する理解の促進と支援

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一歩) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

15	事業名	性的少数者への理解促進のための啓発	所管課所	人権・男女共同参画推進課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
市内事業者への性的少数者への正しい理解を深めるため、意識啓発、理解促進を図る。		性的少数者への理解を深めるリーフレットを市内事業者へ配付する。		
事業の実施内容				
リーフレット「SOGIって知ってる？性の多様性について考えてみよう」を作成し、越谷商工会議所に登録している市内企業のほか、市内の中学校・高校・大学等、市内公共施設等に配付した。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 リーフレットの配付回数		【成果指標】		
【目標】 1回 【実績】 1回		【目標】 — 【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 4(概ね達成できた)		
①越谷商工会議所に登録している市内企業(約5,500社) ②市内小中学校・高校・大学等(62校)		啓発リーフレットを配付することで、性的少数者への理解を促すことができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 1 男女共同参画社会形成のための意識啓発
 取り組みの方向 (3) 国際理解の推進

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一歩) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

16	事業名	国際的な動向についての情報提供	所管課所	人権・男女共同参画推進課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
男女共同参画の取り組みは国際的な動向と密接に連動しているため、国際的な動向についての情報を市民に提供し、男女共同参画に関する意識啓発、理解促進を図る。		男女共同参画に関する国際的な動向について、情報提供を行う。		
事業の実施内容				
男女格差を示す国際的指数である「ジェンダーギャップ指数」のほか、国際女性デーについて、男女共同参画支援センター「ほっと越谷」と連携してパネルを作成し、市役所ロビーで身近な女性へのメッセージを貼れる参加型のパネル展を開催した。(3/6~3/12)				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 実施回数		【成果指標】		
【目標】 1回 【実績】 1回		【目標】 — 【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 4(概ね達成できた)		
		国際的な記念日である「国際女性デー」について啓発および参加型パネル展示とすることで、世界とのギャップや女性活躍への関心を高めてもらうことができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標	I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり	【達成度】
施策の方針	2 男女共同参画の視点を踏まえた教育の推進	5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
取り組みの方向	(1) 学校等における男女共同参画視点を踏まえた教育の推進	4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
		3 (達成まで今一步) : 目標値の60%以上80%未満
		2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

17	事業名	家庭における固定的な役割分担意識の解消に関する講座の開催	所管課所	男女共同参画支援センター
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
家庭において保護者に子どもが小さいうちから男女共同参画の視点に基づいた関わりを持つことの必要性を認識してもらう。		保護者に向けて、性別による固定的役割分担意識にとらわれない子育てなど、ジェンダーの視点を踏まえた家庭教育に関する講座を開催する。		
事業の実施内容				
・12/16「モヤっとする『ずるい言葉』に振り回されないために」(参加者:37人) ・「ずるい言葉」について説明するとともに、言われたときの対処方法等について学んでもらう講座を実施した。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 参加率		【成果指標】 満足度		
【目標】 80%		【目標】 80%		
【実績】 100%		【実績】 87%		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
募集人数30人、参加人数37人(女32人、男5人)、内アーカイブ視聴27人(女23人、男4人)		アンケートの満足・ほぼ満足の合計 「モヤモヤしている事柄について、先生の説明で明確に理解する事ができた」などの感想があり、固定的な役割分担意識への認識を深めてもらうことができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)		日常に起こるマイクロアグレッション(自覚なき差別)を「ずるい言葉」という言葉に置き換えることで、分かりやすく解説することができた。マイクロアグレッションを引き起こす元となる固定的役割分担意識について考えることができた。		
<前年度評価> B				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし。		引き続き、適切に事業を実施する。		

18	事業名	保護者に向けた啓発資料の配付	所管課所	人権・男女共同参画推進課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
家庭で男女共同参画の視点に基づいた教育が行われるよう、保護者に男女共同参画に関する意識啓発、理解促進を図る。		保育所(4歳クラス)、小学校3年生、中学校1年生の子を持つ保護者全員に男女共同参画意識の啓発資料を配付する。		
事業の実施内容				
市内の幼稚園及び公立・私立の保育所の4歳児クラス、小学3年生、中学1年生の保護者全員に家庭での男女共同参画に関するリーフレットを作成し、配付するとともに、ホームページに掲載した。市立保育所については、保護者が登録する保育支援アプリ「コドモン」にて配信した。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 配付部数		【成果指標】		
【目標】 —		【目標】 —		
【実績】 9,580部		【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 4(概ね達成できた)		
4歳児クラス2,865部、小学3年生3,585部、中学1年生3,130部		対象となる全ての保護者に配付することができ、保護者の男女共同参画の意識啓発を促すことができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 2 男女共同参画の視点を踏まえた教育の推進
 取り組みの方向 (1) 学校等における男女共同参画視点を踏まえた教育の推進

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一步) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

19	事業名	教職員に向けた啓発資料の配付	所管課所	人権・男女共同参画推進課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
男女共同参画の視点を踏まえた学校教育が行われるよう、教職員の男女共同参画に関する理解をさらに深める。		市立の小中学校教職員全員に、男女共同参画意識の啓発資料を配付する。		
事業の実施内容				
男女共同参画に関する理解をさらに深めるため、市立小中学校すべての教職員に男女共同参画リーフレットを配付するとともにホームページに掲載した。 今回は、性の多様性とSOGIについて取り上げた。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 配付部数		【成果指標】		
【目標】 —		【目標】 —		
【実績】 1,704部		【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 4(概ね達成できた)		
		対象となる教職員全員に配付でき、教職員への男女共同参画に関する意識啓発を促すことができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし		引き続き、適切に事業を実施する。		

20	事業名	若年層に向けた男女共同参画推進条例リーフレットの配付	所管課所	人権・男女共同参画推進課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
できるだけ早い時期から男女共同参画の考え方を理解するよう、若年層に男女共同参画に関する意識啓発、理解促進を図る。		小学6年生全員に市の男女共同参画推進の基本的な考え方である「越谷市男女共同参画推進条例」のリーフレットを配付する。		
事業の実施内容				
市立小学校6年生全員に「越谷市男女共同参画推進条例」の子どもリーフレットを配付するとともに、ホームページに掲載した。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 配付部数		【成果指標】		
【目標】 —		【目標】 —		
【実績】 3,355部		【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 4(概ね達成できた)		
小学6年生及びその学級担任に配付した。		市立小学校6年生全員に「越谷市男女共同参画推進条例」の子どもリーフレットを配付することで、男女共同参画意識の早期形成を促すことができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
特になし		引き続き、適切に事業を実施する。		

基本目標 I 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり
 施策の方針 2 男女共同参画の視点を踏まえた教育の推進
 取り組みの方向 (1) 学校等における男女共同参画視点を踏まえた教育の推進

【達成度】
 5 (十分に達成できた) : 目標値の100%以上
 4 (概ね達成できた) : 目標値の80%以上100%未満
 3 (達成まで今一步) : 目標値の60%以上80%未満
 2 (達成は不十分) : 目標値の60%未満

21	事業名	教職員への男女共同参画に関する研修会の実施	所管課所	指導課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
男女共同参画の視点を踏まえた学校教育が行われるよう、教職員に男女共同参画に関する意識啓発、理解促進を図る。		教職員に向けて男女共同参画に関する研修会を行う。		
事業の実施内容				
性的マイノリティやアンコンシャスバイアスなどについて、埼玉大学教育機構基盤教育センター渡辺大輔准教授を講師に迎え、御講義をいただいた。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 参加人数		【成果指標】 理解度		
【目標】 44人		【目標】 100%		
【実績】 44人		【実績】 100%		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
越谷市内小中学校44校すべての学校から教員が研修会に参加した。一人一人が主体的に研修に参加することができた。		参加者全員の記述から男女共同参画についての意識が高まり、理解の促進を図ることができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
男女共同参画や性的マイノリティへの理解について、教職員全体で見ると課題が見られる。研修で得た内容を各校の教職員にさらに周知できるよう支援をする。		人権教育校内研修の際に本研修の資料を活用して、周知できるよう各校管理職及び参加教職員に周知する。		

22	事業名	キャリア教育の推進	所管課所	指導課
男女共同参画の視点からの事業目的		手段		
児童生徒に、性別による固定的役割分担にとらわれないキャリア形成ができるよう、男女共同参画に関する意識啓発を図る。		キャリア教育を実践するため、中学校ではさまざまな職業についての調査・体験、小学校では地域の方との交流などを行う。		
事業の実施内容				
小中学校の総合的な学習の時間及び特別活動の授業等において、「進路教育・キャリア教育」の推進を図る。市内中学校においては、生徒の興味・関心や地域・学校の実態に応じて、職場体験や地域の職業人による講演・授業等を創意工夫して実施する「越谷市中学生社会体験チャレンジ事業」を推進する。また、児童・生徒が自分らしい生き方を実現するため、各中学校区においてキャリア・パスポートを活用する。				
活動実績		取り組みの成果		
【活動指標】 実践校数		【成果指標】 実践校数		
【目標】 44校		【目標】 —		
【実績】 44校		【実績】 —		
【達成度】 5(十分に達成できた)		【達成度】 5(十分に達成できた)		
児童生徒の興味・関心や地域・学校の実態に応じて、地域や家庭との連携を図りながら、授業等で「キャリア教育」を推進することができた。		児童生徒が自己の在り方や生き方について考え、主体的な進路選択や自己実現につなげることができた。		
事業の評価				
A(順調に取り組んでいる)				
<前年度評価> A				
認識した課題		課題解決に向けた対応		
児童生徒が将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、小学校からその後の進路にかけて、活動を記録し蓄積することができる「キャリア・パスポート」を、より充実させる必要がある。		各中学校区で、地域の特性を生かした「キャリア・パスポート」を活用できるよう、各中学校区合同研修会や越谷市進路指導主事連絡協議会において、情報交換等を行っていく。		